

犬山のまちづくり 市民活動・地域活動インタビュー

Vol.5 城東小学校区コミュニティ推進協議会

会長：服部 章二さん、副会長：山内 一央さん、津谷 直樹さん



多様な活動を 続けていく

犬山市で、最初にコミュニティ推進協議会が設立された城東小学校区。コミュニティ活動の先駆けとして、城東フェスティバル、クリーンキャンペーン、城東小学校の野外学習支援、歩け歩け芋煮会&餅つき大会など、多岐にわたる地域活動を継続的に実施されています。コロナ禍で、様々な地域活動が縮小していく中、地域のつながりを維持するために、知恵を出し合いながら活動続ける、城東小学校区コミュニティ推進協議会会長の服部章二さん、副会長の山内一央さん、津谷直樹さんに、今回お話を伺いました。

これまでの40年に渡る活動は、どのように維持、継続されてきたのでしょうか。

—「地域活動」や「地域づくり」について、どのようにお考えですか？

山内： 昭和58年のコミュニティ発足から関わってきましたが、コミュニティ自体も当時と大きく変わってきています。昔は5～6人で決めてパツと事業を実施していましたし、事業数自体も少なかったです。

コミュニティ設立当時は、地区内でコミュニケーションが取れていないように感じていたことがあり、“コミュニティ活動”というものを誰も分かっていませんでしたが、初代の会長となる小川さんに誘われて、動き始めました。

昭和60年頃に、コミュニティの盆踊りを始め、各地区に入っていました。その後、地域の人たちの発表の場である芸能祭や、福祉部を作り、高齢者も含めて食事を共にする交流の場、また、ウォーキング大会に参加する人を増やすための芋煮の振舞いも始まり、活動が増えていきました。

今はネット社会になってしまいましたが、皆で会って楽しく語り合うことがコミュニティの基本だったと思います。私自身、祭りなど人と関わることが好きだったので、今日までコミュニティ活動に携わってきました。



▲歩け歩け芋煮会&餅つき大会

—活動を継続する中での課題はありますか？

山内： 昔は、役員決めなどは良いと思う人を一本釣りで、あとはやりたい人が手を挙げていました。でも今は、現役世代の多くが仕事優先で、家庭もあるため、自警団などにも入ってきません。隣近所とのコミュニケーションも取りたくないのかなと感じています。

今までのやり方では続いていけなくなったことで、区や町内会からも人が割り当てられるような形になりました。ただし、区や町内会から入ってきた人の半分は1年で交代してしまいます。1年ではコミュニティの全てはわかりません。今後どのようにすべきか、今抱えている悩みのひとつです。

区域内にある団地も、コミュニティに入る間際までいきましたが、話は途中で頓挫してしまいました。その団地では、役員のなり手がなく、地域の子ども会もありません。

羽黒や楽田のコミュニティは、町内会も主として参加していますが、城東コミュニティでは、区を通じた参加であり、つながりが薄くなっています。町内会の中には、コミュニティが何をしているか知らないという人がいるのも現状としてあります。区をまとめる区長さんも、区の仕事で手一杯になり、コミュニティの会議には出てくれず、おまかせ状態となっています。

津谷： 地域のための活動ですが、コミュニティのことはコミュニティでやってという、無関心が強いと感じています。昔のしがらみにこだわらずに、その時代の状況に応じて運営を続けることで、まずはコミュニティの活動を理解してもらえればと思っています。逆に、大がかりに何かをしようとする、今度は反発が出てきます。

私は生き物が好きなので、蛍が生息できる川の環境づくりの活動から主に関わり始めました。地域にある田口洞川の調査を行い、年々蛍が増えてきています。コロナ禍ですが、今年の蛍の鑑賞会では多くの方に喜んでいただきました。

この事業は、里山を守っていくという組織の基本方針が元々あったの活動というよりも、蛍がいる川という地域の魅力を発見し、途中から始まったものだそうです。このように、関心のある事柄から関わっていただく方を増やしていくためにも、城東地区の自然をいかに子ども達に伝えていくかということを考えています。



—「持続可能なまち」について、どのようにお考えですか。

服部： 身近なことだと、コミュニティの会議では紙をたくさん使用するので、紙をなるべく使用しないようにすることもひとつだと思います。城東は里山の地域なので、今の里山環境を維持し、川を綺麗にして、次の世代に残していきたいなと思います。

城東コミュニティは、善師野・善師野台・長見・富岡・塔野地からなり、地区ごとに違いもあります。区や町内会でも、担い手の高齢化が進み、役員の世代交代が起きています。

コミュニティの事業は学校との関わりが多く、どんどん事業が増えていきます。例えばクリーンキャンペーンは、元々、PTA がやり始めましたが、学校側が1年でやめてしまったので、子供を守るという目的のため、コミュニティが区を巻き込んでやっています。学校の事業ばかりになってしまうと、福祉などやるべきことが希薄になっていく可能性があります。地域から会費をもらっていますので、もっと地域に還元できる事業を行いたい。例年行っている事業の中身を見直していくなど、コミュニティとして、どのような事業を行っていくのか、考える必要があると思います。

「自然を守る」という活動にしても、コミュニティ内で賛否両論あります。福祉や子ども関連など多様な活動をしていくことが必要だと感じています。

今ある事業を残すことも大事ですが、新しいこともやっていきたいと考えています。